

協 連 協 会 報



平成 30 年 3 月 発行

第 46 号

彩の国いきがい大学
校友会連絡協議会編集幹事校
熊谷学園校友会
広報部

埼玉県老人クラブ連合会会長 高橋 義一（蔵学園 第五期生）



私は昨年十月に九十才となりましたが、今のところ身体的には何の支障もなく、四年前には県知事から「彩の国、健康鉄人」の認定を受けました。

また、人体構造や栄養面のことなどについては全くの無知でした。しかし年齢を重ねるにつれて自分自身の健康について考えるようになり、その面の勉強もしてみました。

今から五十八年前に友人と近くの小学校隣の土手の上でラジオ体操を始めることとなり、今でも続けています。さらに平成十一年に健康管理士制度があるのを知り、受験して資格を取りました。

これらの経験と学習の結果、私の健康の条件は、何があっても怒らない事、ラジオ体操のような軽い運動を欠かさず続ける。丈夫な身体を造るための食事についても、現在私の家の主食は玄米です。野菜は一日三百五十グラムの必要量をトマト一個、きゅうり一本で補っています。このほか蛋白質やカルシウム、ビタミン、ミネラル等の補給については栄養関係の本などを参考にしています。現在私達にとって最も気にかかるのは癌です。癌の発生原因の多くは活性酸素の酸化によるものだという学説があります。

人が吸入する酸素の二%が活性酸素に変化するようです。私の考えはこの活性酸素に細胞を酸化させずにリンゴを酸化させるということなのです。このほか認知症予防、鼻うがい、インフルエンザを予防、目の衰えを感じさせない眼球訓練、膝や腰の痛みを防ぐ方法、聴力低下を防ぐ指圧法などがあります。紙面の都合上詳細な説明が出来ず残念です。今後機会があればお話しをさせて頂きたいと考えます。最後に「いきがい大学」の限らない発展とご繁栄を心からお祈り申し上げます。

会員の親睦と交流を

県連協会長 玉岡 福彦



会員相互の親睦と交流、そしてお互いが学び合い、地域社会に貢献できる活動を通じて、自分自身の成長を知る。これがいきがい大学の基本的考え方であると思います。人生百年時代を迎え、益々高齢者の活躍が望まれる昨今、より楽しく、より明るく、より豊かな活動を展開する為に、現在各連協で抱えている、入学希望者の減少、ひいては校友会加入者の減少といった深刻な問題にどう対応していけばよいのか？ 今こそ会員一人ひとりの知恵を結集し、会員減少の歯止めを考えねばなりません。ネガティブではなく、ポジティブに改善できる方法を全員で解決してゆかねばなりません。先輩達の意見を聴きながら、新しい会員の人の意見も吸収し、よりよい運営を心がけたいものです。私自身、持病を抱え乍ら、失明の恐れもある緑内障と戦いつつ、周りの温かい応援に支えられながら努力してまいります。

（川越学園 校友会会長）

皆さんが地域を元気に！

公益財団法人いきいき埼玉

高齢者いきがい支援担当

県連協事務局次長 齋藤晴美

私たち事務局は、いきがい大学を卒業された皆様の方で、地域を元気にしていただきたいと考えております。みなさんが「あたりまえ」と思っているそのスキルはきっと地域で求められています。その手始めとして、平成三十年度から、校友会の皆様と地域でイベントを行う取り組みを始めます。また、「彩の国いきがい大学OB講師」の制度を、もっと自由に、もっと広く活動していただけるようになり、ニューアルし、多くの方々に活躍していただきたいと考えています。これまでの様々なご経験やいきがい大学で学んだことをもとに、地域の方々と「一緒にやってみる」「教えてみる」など、いきがい大学のフィールドに留まらず、財団の事業や市町村などでも活躍していただきたいと期待しています。

※平成三十年度第一回公開学習のご案内
日時：六月十九日（火）午後一時～

第一部

いきがい大学卒業生による活動発表

第二部

内館牧子講演会

社会貢献活動事例報告

学習会・クラブ活動交流会

浦和連協

二十四年間続いている赤い羽根街頭募金がありますが、もう少し広く社会貢献活動を考えてみると毎年浦和連協で実施している「学習会・クラブ活動交流会」もそうではないかという事で紹介したいと思います。



この「学習会・クラブ活動交流会」は毎年秋に朝十時から午後四時過ぎまで四〇〇名入る会場で丸一日開催しています。現在、浦和連協は二四〇

名の会員数のため、多くの方に参加してもらおう上からも校友の友人・知人、いきがい大学の他学園の皆さん地域の子ニア大学の皆さんにもPRし、毎年三〇〇名以上の方に来場していただいで盛大に実施し好評を戴いています。内容は単にクラブ活動の発表だけでなく、他学園の友情出演をお願いするとともに学習会を

セットし、最初は校友会員も八〇〇名程いたので大河ドラマの歴史ものの講演などを行っていましたが、最近では校友会員も大幅に減少したこと地域の多くの皆さんに参加してもらいたいことから、ピアノ・サクソなど音楽の演奏と落語の組み合わせにより、来場者には負担をかけますが会費を負担していただき一日楽しんでいただける内容にしています。今後、浦和連協校友会員は減少することはあっても増えることはありませんが地域の方、他学園の方達を巻き込んで皆さんに楽しんでいただけるイベントを開催し、交流と親睦・生涯学習を実践していきたいと思えます。また、浦和連協の各期が主催する交流学習会で会場が広い場合もありますがこの場合も同じ運用をして地域の皆さんに案内していきたいと考えています。このことが浦和連協が継続していくための道であると思うからです。



会長 金子和生

南京玉すだれ公演活動

熊谷連協

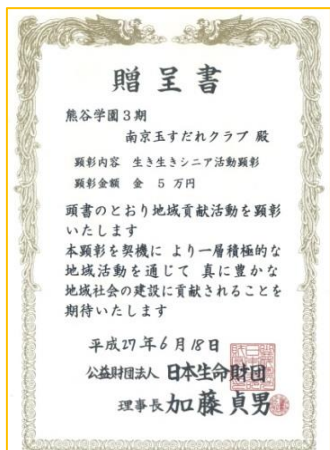
平成二十五年年三月の卒業を機にクラブが発足しました。現在は会員五人で高齢者施設、障害者施設及び地域老人会などを訪問する公演活動を行っています。二十九年十二月末までに八十八回の慰問公演を行いました。二十七年六月には「ニッセイ財団」より「生き生きシニア活動顕彰」の賞状を知事公館で上田知事から戴きました。

クラブの目標は、施設に伺って一緒に楽しく交流を深めてくる事を目指しています。演技の内容は、「南京玉すだれ」の基本演技の外、高齢者の皆さんが知っている「きよしのズンドコ節」や「麦畑」などの曲に合わせて「玉すだれ」を駆使して舞う演技も行っています。更に得意なのは、お馴染みの「サザエさん」の曲に合わせて4つの簡単な動作による体操も取り入れています。

体が十分動かない人もリズムに合わせて、少しですが手足を動かす様子が見られ、我々自身が高齢者から元気をもらっています。

目下来年の芸能祭に備え新曲にも

取り組んでおり、これを公演時のプログラムにも加えていこうと振付をアレコレ思案し次の公演に向けて練習に励んでいます。



二年制三期 南京玉すだれクラブ 村田 裕滋

川越氷川神社の清掃活動

川越連協

川越連協として、何かまとまった活動を目指してはいますが、現段階では各期毎の活動にとどまっておりません。「川越まつり」時の町の清掃、交通安全週間の街頭でのチラシ配付、共同募金の街頭での呼びかけ、川越氷川神社の清掃等。今回は三十四期の川越氷川神社での清掃を取り上げたいと思います。

我々が三十四期校友会としてスタートしようとした時点で、東日本大地震の影響で活動が中断し、活動を再開したのが七月とあって、この年はボランティア活動どころではなく、何とか校友会活動をスムーズに進めることに専念せざるを得なかった。翌年になって期としてボランティア活動を検討し、川越氷川神社の氏子世話役が仲間にいることを知り、川越氷川神社と関わりを持つ会員の口ききで、宮司の山田禎久様の許可をいただき、毎年六月に境内の清掃をさせていただくことになりました。最初は六人程でありましたが、年を重ねるごとに、口コミで参加人数が増え、今年の六月は一六名が参加、最も多く参加した時は二十三名でした。

清掃の前に神主によるお祓いを受け、清掃後は、奥の宮へ入れて貰い、本殿四方の彫物の説明を受けるのが楽しみの一つとなる。そして、ボランティア活動を終えた後、宮下町のロイヤルホストで昼食会を開き、おしゃべりするのを楽しみとなる。会員数も減っていくことであるうが、校友会が存続する限り、続けていきたいものです。



三十四期 玉岡 福彦

社会福祉施設・地域サロン訪問

久喜連協



久喜学園三十八期オカリナクラブ「やまびこ」は発足初年度から我を省みず、社会福祉施設等を訪問してオカリナ演奏をしています。今年からは久喜市社会福祉協議会の協力により地域サロンを

訪問しています。訪問にあたっては施設等の方と曲目の選定等を行っています。お正月、さくら、こいのぼり、夏は来ぬ、里の秋、クリスマスソングなど、時季にあつた昔懐かしい童謡・唱歌・懐メロなどを施設の入所



者・利用者、地域サロンにお集まりの皆さんに、オカリナを聴いていただくとともに、皆さんと一緒に歌い、楽しい時間を過ごしています。懐かしい曲を聴き、当時を思い、当時を思い出され声を詰まらせる方もいらっしゃいます。

声を出すことにより元気を出していただき、私



たちも元気をもらってきます。途中では、皆で折紙を織ったり、手品の種明かしをしたり、時間の許す限り施設等への訪問をしています。

また、今年には久喜連協として募金活動を行いました。昨今、東日本大地震をはじめ全国各地に広汎で甚大な災害被害が発生しています。被災地の一日も早い復興を願い、



私たち久喜学園校友会連絡協議会では、微力ながらも息の長い支援を継続するために、合同文化祭、公開学習等で皆さまからお預かりした浄財を久喜市を通じて震災被災者支援基金に寄付させていただきます。

広報部 高橋 善夫

アフタヌーンのおひらきを楽しむ

蕨連協

蕨連協は、本年度校友会活動の充実を図るため、社会貢献活動の一環として、第三回特別イベント「アフタヌーンのひとつときを楽しむ」を実施いたしました。



本年も校友会員の家族・友人・近隣の人達及びいきがい大学他連協等多数の人々に

声をかけた結果、632名の方が来場され、盛大に開催することができました。

第一部は、地域で活動している朗読サークル「声の会」の有志の、村田里美、鬼久保千春他5名による出演で「十二支のはじまり」、「雪女」等全6話を公演いたしました。7名がよく通る声の趣ある語りによって、その世界に引き込まれ、朗読の醍醐味を堪能することができました。

第二部は、第一線で活躍しているオペラ歌手・メゾソプラノの小泉詠子さんの声楽とピアノの山形明朗さんの演奏会でした。小泉さんの石川啄木作詞、越谷達之助作曲の「初恋」をはじめとする日本歌曲を六曲、オペラの Aria では、ロッシーニ作曲の「チェネレントラ」から「悲しみと涙のうちに生まれて」とハバネラやフイガロの結婚からを、感情ゆたかな美声が会場を魅了しました。山形さんは、浅田真央さんの演技で使用した曲を特集し、ショパンの曲をメインにラフマニノフのピアノ協奏曲第二番等さすがプロのピアニストという演奏は



感動的でした。

最後に「今日の日はさようなら」を、山形さんの伴奏で、小泉さんと一緒に全員で合唱し、午後の楽しいひとときを共有し、閉幕しました。

これからも皆様に喜ばれる「特別イベント」にしていきます。

二十六期 宮崎 惇治

都幾川の美化活動四年目

東松山連協

いきがい松山二十九期では、都幾川の美化活動を始めて四年目になりました。ゴミ拾いは、東松山嵐山学



園がある国立女性会館（ヌエック）下の学校橋から、月田橋先の鞍掛橋までの両岸です。距離にして2km弱

です。毎年、春と秋の行楽シーズンに行っています。少し距離があるため、右岸と左岸は別々の日にゴミ拾いを行っています。左岸は、比較的草丈の高い植物が生えている中で作業になり、慣れていないと大変です。初めての時には、河川敷に降りることができない人もいましたが、今では平気です。春は、菜の花が背丈ほどにもなり、あたり一面に咲いています。周りから見るととても美

しい光景です。菜の花をかき分けての作業も、楽しめるようになりました。



右岸の学校橋から月田橋までは、草藪の部分もありますが、砂利の河原が広がっ

ています。今年、雨の日が多く、川も増水し、河川敷も水没していました。左岸と同じように、河原の木には、沢山の漂流物が引っかか



っていました。天候の加減もあり、秋の左岸のゴミ拾いが行えず、残念でした。普段は、大きなゴミ袋で、20袋弱ですが、秋のゴミ拾いでは、30袋以上にもなりました。来年も頑張ります。

二十九期 青木 明雄

合同研修会イベント「いちよ・きよ・やぎりんバンドコンサート」

伊奈連協

十一月十七日に第二十六回合同研修会イベントとして「いちよ・きよ・やぎりんバンドコンサート」を県民活動総合センター・小ホールにおいて開催しました。会員、在校生のほか、元会員や家族・友人の方々にも声をかけ230名程の参加を得られました。



バンド主宰者の八木倫明さまは、様々な組合せのバンド・コンサート活動を活発に行っておられ、「広い河の岸辺」の訳詞者としても有名です。

また、東日本大震災後の被災地支援演奏活動等、ボランティア活動にも積極的に取り組まれておられます。

このたび八木さまのご好意により無料コンサートを開催することができました。

主催者挨拶、来賓ご挨拶等開会式終了後、いよいよコンサートの開演です。ユーモアを交えた楽しいトーク、演奏曲の紹介・解説をはさんで、アンコール曲を含め十四曲の歌＋ギター＋キーボード等の美しい歌声・音色、ハーモニオを楽しみました。

プログラムは、ラテンアメリカおよびヨーロッパの民謡等から日本の歌まで幅広いレパートリー構成でした。

コンサート終盤には、コーラス曲としても人気の「広い河の岸辺」をバンド演奏に合わせて参加者全員で合唱し、ラスト曲の「島歌」も会場は拍手で盛り上がりました。アンコール曲「灰色の瞳」の後は、会場全員の拍手で感動の幕を閉じました。これからも会員の皆さんに楽しんでもらえるイベントを企画、実施して行きたいと思っています。

専攻課程第2期(水)

校友会 笠 記

ボランティア活動の 団体活動報告

春日部連協

ボランティア活動は現在までに6団体が報告され登録をしています。これらの団体活動を簡単にご紹介いたします。

○十三期ボランティア部「老人施設等への慰問・共同募金活動」

○十四期校友会「クリーンボランティア、春日部市西口付のゴミ収集活動」

○昔の子ども遊びいちごの会「児童館等で子供達に昔からの遊びを伝えている。

○いきがい南京玉すだれ会「高齢者施設等で、南京玉すだれと他のコラボレーション」

○彩幸17リラの会「高齢者施設等で、歌や日舞、民踊、ハワイアン等を披露」
○2-1校友会オカリナクラブ「高齢者施設でオカリナの演奏と合唱」



☆彩の国いきいきフェスティバル(10月22日(日)県民活動センター)

当日は台風接近中でしたがどうにか開催

できました。割りばし 鉄砲、手作りコマととんぼ、ベーゴマ、リサイクル品を使つてのもの作り等で実演者、来場者の子どもと保護者、お手伝い要員が一体となって心地よい時間を過ごしました。県立大学清透祭(10月28日(土)、29日(日)埼玉県立大学)28日、29日も台風が接近しましたが、無事開催、終了出来ました。



内容はいきいきフェスティバルとほとんど同じでした。



実演者、お手伝い要員かお孫さんと同年齢の子どもに懇切丁寧に教えていました。

☆専攻2期ボランティア集団「花」(12月7日(木)旧庄和町老人設

しょうぶ苑) 影絵、クイズや歌などを披露しました。

社会活動部長 清水 希貞

少しレアな「鼻笛クラブ」

入間連協

世の中には珍しい楽器は多いのですが「鼻笛」もそのひとつではないかと思えます。鼻に楽器を手で押さ



えて歌を歌うように息を通していくとメロディーを奏でるのです。

オカリナと兄弟だという説もありますが、どうしてあのような音色ができるのか不思議です。この音色の魅力にとりつかれ、より多くの方に聞かせたい、そんなメンバー達の活動報告です。そもそも「鼻笛」が演奏されたのは学園祭でした。それが校

友会でクラブとなり、月に2回市民会館の防音室で練習しています。現在はレパートリーも十数曲になり、昨年には知人からの紹介で初めて施設の訪問演奏を行いました。観客と一体になって演奏すると合唱が始まり、笑顔と拍手が今までの練習の辛さ？を吹き飛ばしてくれました。

現在は入間市の社協に登録をすることで様々な情報を得られ、活動はほぼ月1回は行っています。活動先は主にデイサービスと地域の商店街の催しに参加しています。

これからもさらに積極的に活動し、多くの方に楽しさを伝えたいと代表者は熱く語っていました。入間連協では全会員で行っている社会貢献活動があります。使用済みの切手や書き損じたハガキなどを持ち寄り施設に寄付をするという活動です。誰にでもでき、さりげない優しさや思いやりのある活動です。

これからもずっと継続していくつもりです。この様に社会貢献の活動をされている団体は県連に多くあります。現在、その情報を多くの方に知って頂くために資料の整理をし、たやすく公開する為の改善作業を県連社会活動部が行っています。

八期校友会 稲葉賢治

和光学園第一期校友会活動

和光学園

1、一昨年（平成二十八年四月）に専攻課程2学科（音楽、健康づくり）で開校し、昨年三月に第1期校友会が立ち上がりました。校友会加入率は79%（加入者51名）。その中で、2学科の加入率が、大きく異なっており（33%と94%）います。また校友会会員の半数以上が引き続き和光をはじめ、他のいきがい大学の現役生です。

2. 校友会事業計画

来年度からの和光学園連協に向けての礎となるよう、「満足度の高い校友会」を目指していきたいと思いましたが。課題としては、会員への情報提供と意見収集をどうやってスムーズにしていけるか？そのために、会員への情報受け取り手段についてのアンケートを実施しました。

事業計画の策定に当たっては理事会で充分議論をして、それを会員へフィードバックさせ、更に煮詰めていくよう努めました。尚、今年度校友会事業の大きな柱としては、次の4つを掲げました。即ち、

- ① 学習会 ② 屋外イベント ③ 見学会
- ④ ボランティア活動などでありました。

3. 今までの実績と今後の予定

各事業の実施に当たっては事前調査及び会員の参加状況などの詰めを行いました。第1回は、昨年7月に和光市政おとどけ講座と合唱・茶話会など、学習会と交流会のセットで行いました。第2回は、10月にサイボクハムでのバーベキューと智光山公園の散歩でした。参加率は何れも60%を超え好評でした。残りの2つの事業は今年1月と3月に予定しています。



4. 終わりに

今年の3月には2期生校友会が発足し、その後、和光連協が立ち上がることになっていきます。

新会員の多くは、2つ以上のいきがい大学の卒業生、又は現役生と推定されますが、和光連協加入へのモチベーションが果たしてどのくらいなのか？期待と不安が交差しています。

蒲田秀男

県連協事業報告 いきがい大学第一回公開学習いきいき活動事例発表題

2 題

平成 29 年 7 月 12 日 (水)

「いきがい松山 29」の素晴らしき

仲間による、都幾川美化活動

東松山連協

「いきがい松山 29」美化活動のステージ発表会が、幕開けとなりました。6 人のメンバー（平均七十歳強）は、緊張と不安を抱えての始まりでした。

始まって早々に観客席から笑いがあり、その声を聴いてからはだんだん落ち着きました。そしてフィナーレでは、さらに笑いと拍手も一段と大きくなりました。拍手を受けている僅か 2 分ぐらいの間に、今までの過程が走馬灯のように浮かんできました。発足当時、3 人での下見から始まり、クラス全員の参加で、年二回の美化活動を実施しました。二年目には 29 期校友会全体での活動となりました。その後、松連協全体の集団となり、現在は 49 名の集団となりました。美化活動の回数も、春と秋合わせて年四回になりました。下見と準備に追われる時もあります。が、うれしい悲鳴です。発足にあたり、大きく 2 つの事を決めました。作業時には

- ・自分の出来る事しかやらない。

- ・時間が来たら作業は止める。
 - ・他の人に指図、強要はしない。
 - ・作業後は懇親を兼ね昼食会を行う。
- 年間事業としては、



・川をもっと知り楽しむ活動を行う。
 （今年度は柳瀬川のお花見ウォークと巡視船新東京丸で東京湾視察）を実施しました。

後の課題としては、やはり高齢化の対応です。この会にご賛同いただける方のご参加をお待ちしております

松連協会長 青木 明雄

アロハレインボーと

カラオケの仲間達

入間連協

入間学園七期で学んだことを土台として、社会貢献活動をしてきた事例を発表しました。その舞台は、在校生時代に受けた公開学習のステージです。なつかしく覚えている会員の方もいらっしゃると思いますが、何と二四〇〇人のお客様の前の発表です。日頃は、7 期在校生時代の七班とカラオケクラブがコラボして、老人介護施設などの慰問活動をすすめています。その内容は、男女混合のフラダンス、カラオケクラブの合唱を中心に、歌謡曲舞踊や南京玉すだれ、民話の朗読、マジックショー（笑）など多彩です。平成二七年には三回、二八年には四回、そして二九年には九回の実績を積んできました。今回は、その成果を、公開学習という大舞台で発表しました。与えられた時間は、約二〇分。前段では、貢献活動の今までの歩みを写真等と交えて紹介しました。その後、七班で結成されている「アロハレインボークラブ」のフラダンス「プアマナ」

の演技、カラオケクラブの二曲の合唱を披露しました。

いつもの慰問活動とは、全く違うスケールの中、日頃の成果を十分發揮、お客様も大変楽しんでおられたようでした。もちろん、参加メンバ



も大変な緊張と共に、大いに楽しみました。とにかく、会場、舞台、楽屋、お客様の数、何から何までスケールが違いました。この経験は、大いに自信となりました。今後ますます活動の輪を広げていきたいと思っています。

広報部 足立 弘

社交ダンスの集い

今年度は会場を変えて、10月6日に蓮田市体育館（パルシー）において、ダンス出演者242名と関係役員等を含めて総勢280名程の参加のもと開催されました。九時から会場づくりと七学園毎に出演者の受付を始め、10時15分前から和気あいあいの中にも入念なチェックが、定められた時間の中でリハーサルが進められました。

12時30分から学園旗を先頭に全員入場整列、司会進行により、開会宣言、主催者挨拶、来賓ご挨拶、実行委員長の注意事項等開会式が執り行われました。二部においても「フ



リーダンス、フォーメーション、ミキシング・トライアル・ラストダンス」と長時間にわたり出演頂きました皆さまそして、これを支えて頂きました各学園役員の皆さまありがとうございます。閉会式は、講評の中島副会長からのユーモア溢れるお話にて、今日一日の疲れを忘れ、笑顔が会場一杯に広がりました。今回は伊奈連協が代表幹事校とし、裏方事務作業を務めさせて頂き、尊い体験となりました。各学園のご協力ありがとうございました。お礼申し上げます。

伊奈連協 二十二期 矢島和義

グラウンド・ゴルフ交歓大会

今年度は蔵・伊奈連協が幹事校となり、10月25日の第19回グラウンド・ゴルフ交歓大会の開催に向け、6月12日から開催場所、実施要領等の検討会を開始し、その後何度も会議を重ね、最終的に今年も熊谷ドームでの開催となりました。そして大会を控えた10月10日には熊谷連協のご協力により下見会を実施させて頂き、準備万端の体制で当日を迎えることができました。大会当日はあいにくの雨模様で肌寒い天候でしたが、各連協より総勢183名の選手が集まり寒さを吹き飛ばす熱戦を繰り広げました。試合開始前の始球式では熊谷市長のホールインワンが早速飛び出し会場を沸かせました。昨年引き続き二年連続とのことで驚きでした。試合では選手の皆さんが日頃の練習の成果を發揮し全体で229個のホールインワンが出るなど大いに盛り上がりました。結果は熊谷ドームの地の利を生かした熊谷連協が一位から三位までを独占し、入賞者も多数を占めるといって圧倒的な強さでした。蔵連協は昨年の芸能祭に続き今年もグラウンド・ゴルフ交歓大会の幹事校と二年連続で大役を任せられましたが、無事に終えて安堵しております。最後になりますが、開催にあたり各連協の皆様にご協力をいただき、感謝を申し上げます。



蔵連協 萩原 正信

第六回芸能祭

3月7日（水）川越市やまぶき会館に於いて、県連協主催の芸能祭が開催され、各連協を代表する出演者四七〇名と実行委員五〇名がつどい、太極拳を始め、コーラス、懐かしの昭和コマーション、ソシアルダンス、フラダンス、手話ダンス、ハーモニカ演奏、粹太鼓、レクダンス、朗読、スクエアダンス、よさこいソーラン、社交ダンス、オカリナ演奏、寸劇、フラダンス、コーラス皆で歌おう、演芸と次々に披露され、観ている人に感動、感激を与えてくれました。こういった晴れの舞台を迎えられたのも、裏方として働いてきた実行委員の助力無しには成り立たなかつたでしょう。



東山博実行委員長（川越）が旗を振り、副幹事校の熊谷からは、大槻実行副委員長を中心に打合せを五度にわたり行いました。2月5日、出演者との最終打合せも無事に終わり、発表の日を迎えることが出来ました。当日は実行委員として熊谷から一六名、川越から二〇名、いきいき埼玉から五名にお手伝いを頂き、盛会の内に幕を閉じることが出来ました。紙上を借りて改めて出演者並びに実行委員、いきいき埼玉事務局の方々に感謝及び御礼申し上げます。本当に有り難うございました。

川越連協 玉岡 福彦